



会期■平成17年(2005年)10月8日(土)~11月27日(日)
 会場■あけほのパーク多賀・ギャラリー

平成17年度 多賀町立文化財センター特別展

敏満寺の中世墓地

国史跡・敏満寺石仏谷墓跡



▲敏満寺遺跡石仏谷墓跡と周辺の地形測量図

1. 敏満寺とは

敏満寺周辺は、奈良時代に東大寺の荘園として「水沼荘」とよばれる地域であったことがわかっています。「みぬま」が「みまじ」→「びんまんじ」に変化していったのではないかとされています。今は「敏満寺」という寺院は存在しません。寺の主要伽藍があったと思われる場所は、胡宮神社境内になっています。おそらく、平安時代には寺院として存在していたと推定されていますが、詳しいことはわかりません。丘陵に広がる敏満寺の背後にある青龍山をご神体山にした山岳寺院と考えられています。

鎌倉時代になると、敏満寺は東大寺の再興に尽力したという記録が残っており、大きな勢力を持っていたことがわかっています。平氏の南都焼打で消失した東大寺を再興するため責任者に選ばれた重源上人は、その再興にあたり、感謝の気持ちをこめ、敏満寺に銅製五輪塔と書状を贈っています。しかし、敏満寺の役割がどのようなものであったかはわかりません。

伝承する古文書にも敏満寺が中央勢力と関係があったことはわかっていますが、どのような寺院で、どのような性格をもっていたのかなど謎の多い寺院です。また、戦国時代に浅井氏や織田氏とも対立し、寺院衰退の大きな要因になったと推定されていますが、寺院が消滅した原因も不明です。



▲空から見た敏満寺遺跡（左が北）芹川と犬上川にはさまれた丘陵に遺跡が広がります。現在は名神高速道路多賀サービスエリアがその中心に位置します。



▲遺跡位置図 敏満寺の南には、湖東三山といわれている「西明寺」「金剛輪寺」「百済寺」の三大寺院があります。また百済寺、石塔寺、大谷古墓などで中世墓地を確認しています。『謎の敏満寺を再現する・(財)滋賀県文化財保護協会発行』より



▲青龍山（西から）龍が横たわるような形に見えるといわれています。青龍は四神の一つで、東をあらわすことから、湖東平野の東にある山として名付けられたとも考えられます。



◀青龍山の磐座（いわくら）
山全体が信仰の対象であったと思われる、その一部に湖東流紋石類が露出する部分があり、ここを中心にした山岳信仰が敏満寺の信仰になっていたと考えられています。



◀水沼村荘園絵図（部分 宮内庁蔵）本図は水沼村三十町と霸流村（彦根市石寺町）七十町が描かれています。奈良時代に敏満寺周辺が東大寺の荘園であったことがわかるものです。

2. 発掘調査の成果

敏満寺遺跡では昭和34年（1959年）の名神高速道路建設の事前調査など、5回の発掘調査が行われています。



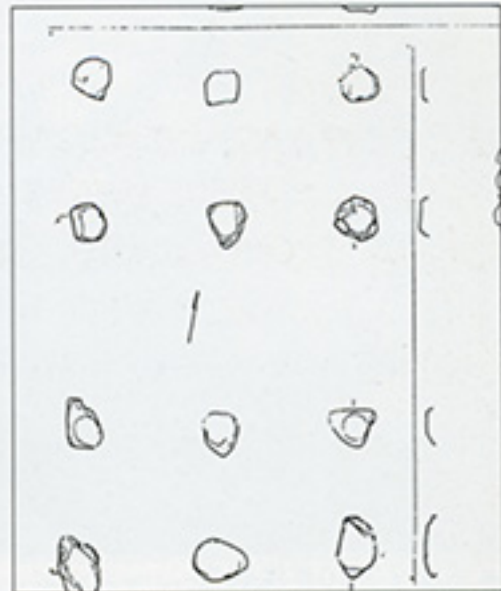
▲敏満寺遺跡年度別調査「謎の敏満寺を再現する・財滋賀県文化財保護協会発行」より

昭和34年調査

仁王門・堂跡の建物の存在を確認し、寺院の存在が明らかになりました。



▲敏満寺跡発掘地域略（「滋賀県史跡調査報告第十二冊」滋賀県教育委員会発行より）



▲仁王門跡礎石（「滋賀県史跡調査報告第十二冊」滋賀県教育委員会発行より）

昭和57年調査

遺跡の範囲を確認する調査で、丘陵全体に建物等の存在が確認されました。



昭和61年調査

サービスエリア改良工事に伴う調査で、城跡とされる遺構が確認されました。現在も公園として残されています。



▲調査地区全景（空撮）



▲土塁（どるい）と建物跡



▲施設の入口と土塁

平成6年調査

建物などを区画する溝を確認しました。



▲調査地区全景（南から）

平成6～12年調査

町屋と推定される遺構や道・溝などが確認されました。15世紀～16世紀の時代が中心です。



▲平成9・10年度調査



▲平成11年度調査



▲平成11年度調査



▲平成12年度調査



▲平成12年度調査

平成9～16年調査 (石仏谷[いしほとけたに]墓跡)

石仏谷(中世墓地)の調査で、現状把握するための測量調査と保存整備を目的に一部の発掘調査を行いました。

山の斜面を雑壇状に削平して平坦面を設け、平坦面に墓地を築いています。墓地の形式は様々ですが、ほとんどが火葬骨を蔵骨器に納めて埋められています。古い時期のものは石仏を伴わないことや、瀬戸焼・常滑焼の蔵骨器が多いことがわかりました。他に、北陸や西日本の陶器も出土していることなどの特徴もわかりました。周辺には堂舎があったと推定される平坦面なども確認しました。

現存する中世墓地では全国的にみても貴重なものであるとされ、平成17年7月14日に国史跡指定を受けました。

全体配置想定図



▲錫杖(しゃくじょう)
堂舎跡から出土したものです。鎌倉時代のもので、発掘調査での出土例としては珍しいものです。



▲蔵骨器と火葬骨

大型の蔵骨器で、直径1m、深さ70cmの土坑に逆位(口が下)の状態で見つかりました。別個体の陶器底部と体部で蓋をしていました。蔵骨器の中には大量の火葬骨が詰まっていた。



▲発掘調査A区

石仏谷墓跡の中でもっとも古い形式の墓と推定されています。長方形の基壇を石で囲い、墳丘上に、蔵骨器を埋めています。



▲発掘調査G区

平坦面に石や溝で囲い区画を設け、何回か造りなおし、その中に蔵骨器を埋めています。また、穴の中に直接火葬した骨だけを埋めるようなこともしています。

3. 敏満寺の謎

多賀大社との関係は？

敏満寺の丘陵の北側の平野部にある多賀大社は、敏満寺とは違い、浅井氏、織田氏、豊臣氏、徳川氏と権力者から大切にされていたことがわかっています。また、多賀大社は「古事記」にも記録があります。明治時代の神仏分離で仏教関係のものが散逸してしまいましたが、伝承する貴重な文化財は、長い歴史と信仰を物語っています。

敏満寺は敵対する勢力であったのですが、多賀大社は保護されていました。また、敏満寺との関係は現在、全く認められません。本当に何も関係がなかったのでしょうか？ かろうじて多賀大社の参詣曼荼羅図（江戸時代）に敏満寺らしき寺院が描かれているなど、なんらかの関係を垣間見ることはできます。多賀大社との関係解明は敏満寺という寺院の性格をみる上で注目されます。



▲多賀大社参詣曼荼羅図（多賀大社蔵・町指定） 右下部が敏満寺を描いたと考えられています。江戸時代にはまだ敏満寺の存在が意識されていたことがわかります。



▲木造阿弥陀如来坐像（真如寺蔵・重要文化財）多賀大社の本地仏で明治時代の神仏分離で真如寺（多賀）に移されました。



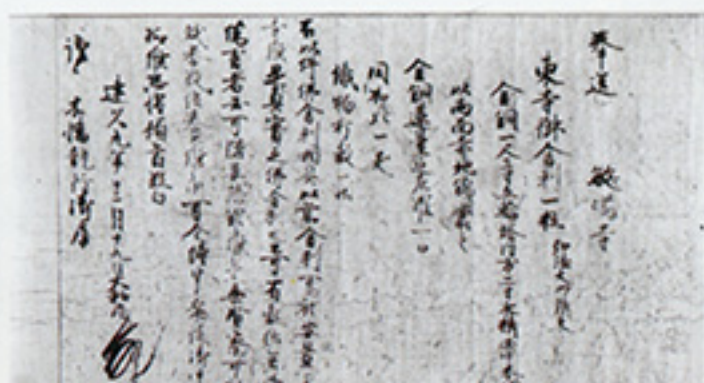
▲木造大日如来坐像（高松寺蔵・町指定）同じく、明治時代の神仏分離で多賀大社から高松寺（八重練）へ移されました。

東大寺と重源上人

奈良時代に敏満寺周辺に荘園が存在したことはよく知られています。また、重源上人が東大寺復興に感謝して敏満寺に五輪塔を贈ったことも知られています。しかし、なぜこの地に荘園があったのか？ なぜ敏満寺へ五輪塔が贈られたのかは謎です。



▲重源上人像（東大寺蔵・国宝）



◀金銅製五輪塔寄進状



▲塔底刻銘



▲金銅製五輪塔（胡宮神社蔵・重要文化財）



中世都市と中世墓地

発掘調査の成果などから、敏満寺は中世には都市的な機能をもっていた可能性が考えられています。近隣では金剛輪寺や百済寺という中世寺院があり、百済寺では大規模な中世墓地が存在していたことが発掘調査や隣接する引接寺境内に集められた石仏・五輪塔から想定されています。また蒲生町の石塔寺でも境内に石仏・五輪塔が集められています。福井県の一乗寺や平泉寺などの中世都市的な要素と比較し、近隣の寺院などと比較することで、敏満寺の性格が解明されるのではないかと注目を集めています。



▲百済寺（「鯉江城遺跡・百済寺遺跡」東近江市教育委員会より）



▲金剛輪寺（「金剛輪寺坊跡分布調査報告書Ⅰ」秦荘町教育委員会より）



▲引接寺の境内に集められた石造物（百済寺）



▲引接寺の境内に集められた石造物（百済寺）



▲石塔寺の五輪塔群



▲石塔寺の石仏群



敏満寺の構成

中世には、寺院を中心とした宗教都市のような地域があったのではないかと考えられます。

敏満寺もまだ謎は多くありますが、発掘調査で明らかになりつつある遺跡の性格をまとめると、左図のようになります。

寺、城、門、宿坊堂舎、町屋、墓、水田、と信仰の中心になる山です。

4. 伝承する文化財

彫刻

現在は、胡宮神社境内にある、社務所・神奥蔵・大日堂等の建物に敏満寺関係の文化財が伝承しています。



▲銅製大日如来坐像（敏満寺区・町指定）



▲木造大日如来坐像（底面）（敏満寺区・町指定）江戸時代に盗難にあったいきさつが記されています。

◀木造大日如来坐像（稍仏）（敏満寺区・町指定）左の「銅製大日如来坐像」が収められている像です



▲銅製毘沙門天立像（敏満寺区・町指定）



▲木造地藏菩薩半伽像（敏満寺区・町指定）



▲木造十一面観音立像（敏満寺区・町指定）



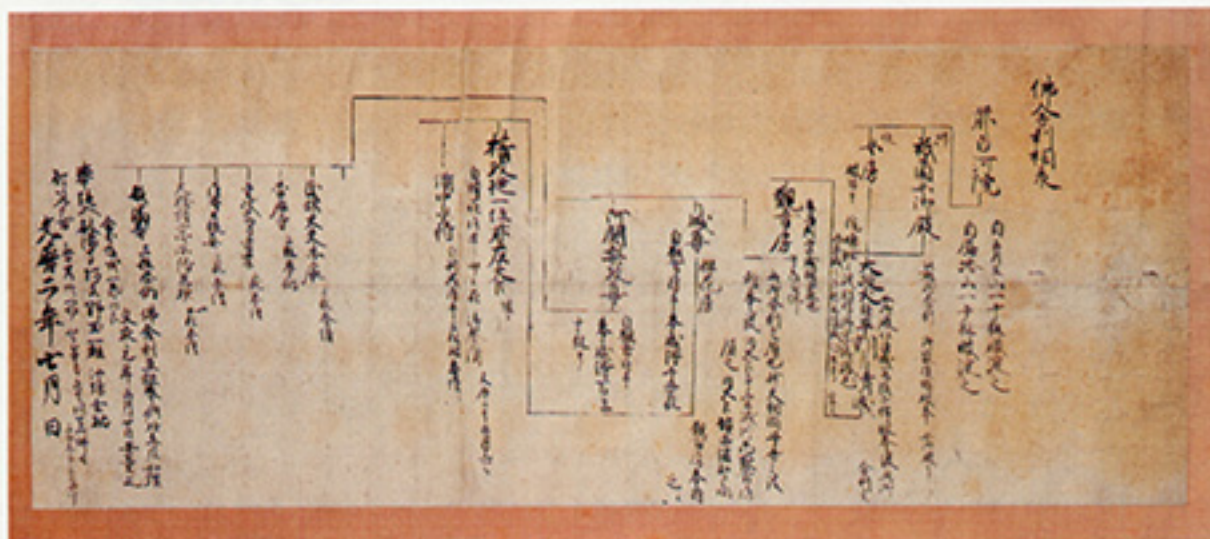
▲木造僧形神像1（敏満寺区・町指定）



▲木造僧形神像2（敏満寺区・町指定）



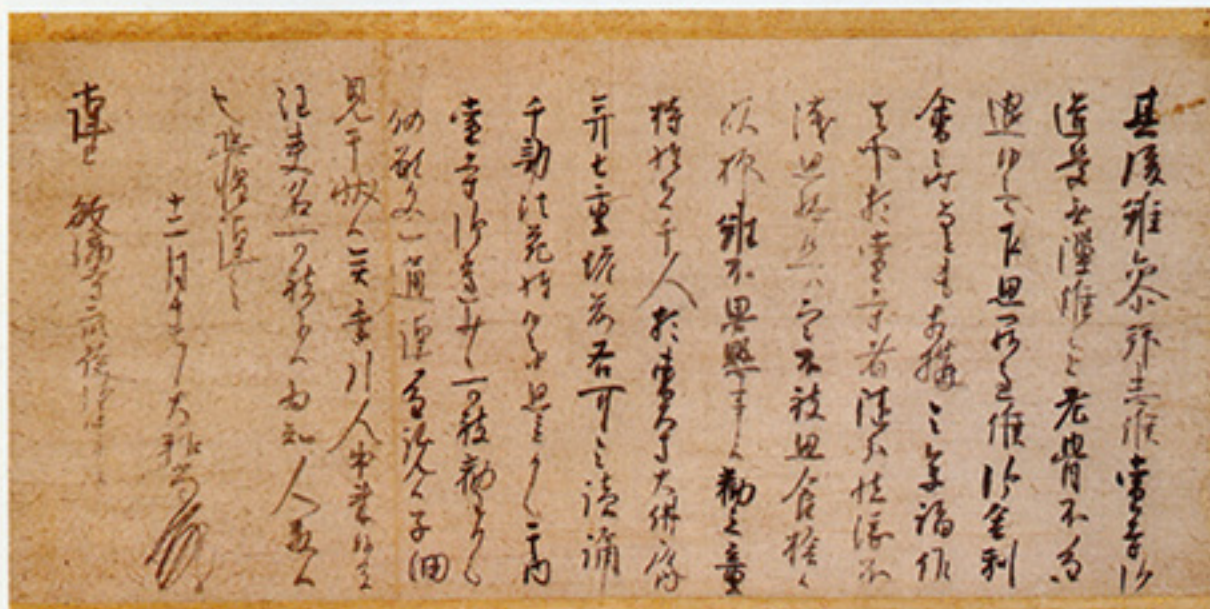
▲木造僧形神像3（敏満寺区・町指定）



▲仏舍利相承図 (胡宮神社蔵・町指定)



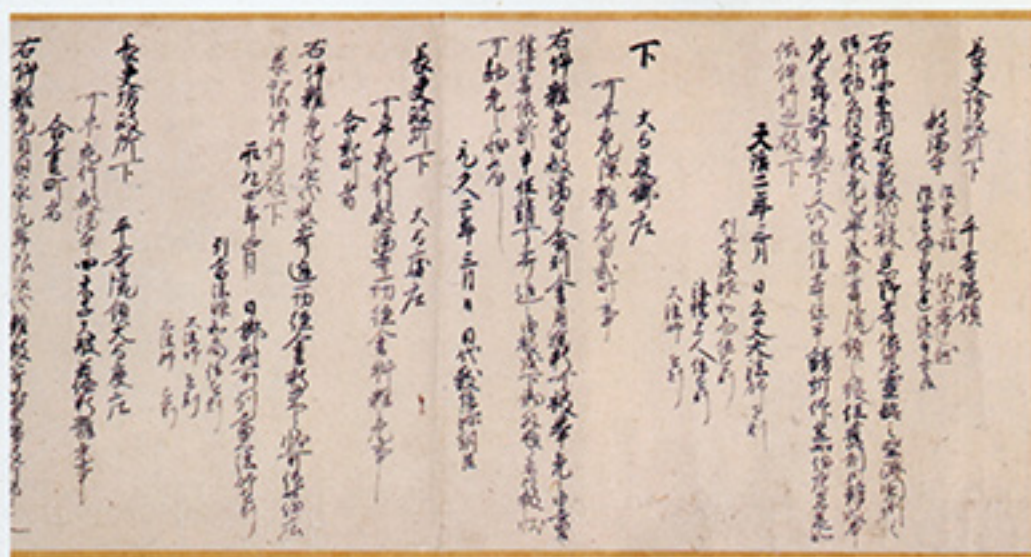
▲絹本着色天台大師像 (胡宮神社蔵・町指定)



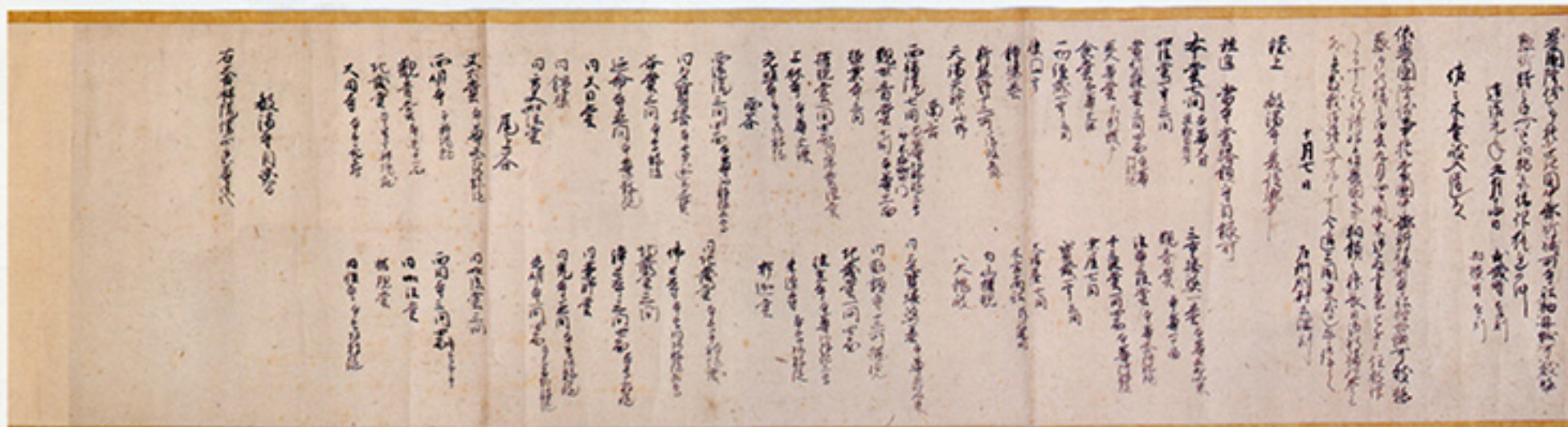
▲重源文書 (胡宮神社蔵・町指定)



▲紺紙金字大般若波羅密多心經 (胡宮神社蔵・町指定)



▲胡宮神社文書 (部分) (胡宮神社蔵)



▲胡宮神社文書 (部分) (胡宮神社蔵)

平成17年度 多賀町立文化財センター特別展

敏満寺の中世墓地

～国史跡・敏満寺石仏谷墓跡

発行日 平成17年10月8日
 会場 あけぼのパーク多賀・ギャラリー
 会期 平成17年10月8日(土)～11月27日(日)
 編集発行 多賀町立文化財センター
 印刷 サンライズ出版株式会社